

# 港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561 mail info@kouhoku-saibora.net

HP <http://www.kouhoku-saibora.net>

2016年9月

\*入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください



横浜市港北区ミズキー

## ボランティアセンターは誰のため、何のため

9月23日に区からの要請を受け、太尾防犯拠点センターをどのように活用できるかを確認するための訓練が行われます。無線機やメールを駆使しての情報交換を本部と防犯拠点センターで行い、防犯拠点センターが災害時にボランティア活動の拠点としてどのように活用できるかを確認するものです。

### ●ボランティアセンター（ボラセン）はどのようにして作られるのか

今までの被災地では地元社協を中心にブロック派遣（注1）された社協職員や地元団体（JCなど）と、経験を重ねたNGOやボランティアが一緒になってボランティアセンターは作られました。また支援P（注2）もスタッフを派遣し立ち上げを手伝ってくれます。それらの力（支援）と地元の力（受援）が合体してこそ良い活動ができるボランティアセンターとなります。そ現地情報を広域的に交換する仕組み（JVOAD）も出来ました。

### ●ニーズは探すもの

「全ては被災者のために」のスローガンを掲げるボラセンが多くありました。しかし東日本大震災のボランティア活動実態調査（内閣府調べ）では、発災直後の被災地情報を収集する人材不足を指摘しています。被災の正確な状況が分からなければ、どこにどのような支援をすれば良いか見えません。今回の訓練はこの練習になります。

状況が分かりボランティアが集まり出したら、次にやる事はボラセンができたことを周知することです。被災者の方たちに、自分たちでできない事はボラセンに頼めることを知ってもらうことがとても大切です。東日本大震災での経験から、ボランティア活動は泥出しなどの体を使っての作業が基本と思っている人が大変多いのですが、これは間違いです。老若男女それぞれの力、特性に合った活動を展開させるのが災害ボラセンの力の発

揮しどころです。単にボラセンに上がってきたニーズだけをボランティアに割り振れば良いわけではありません。そのためには全戸ビラ巻きのような作戦が必要で、まずそれをしなければいけません。それは在宅避難者への支援にも、避難所の改善にもつながる情報収集となります。ですから拠点との情報交換も重要です。

### ●ボランティアセンター支所が必要

広い港北区全体を一つのボランティアセンターで運営して行くことは無理です。そのため区内各所にサテライト（ボラセン支所）が必要になるでしょう。今回はなかなか地域には見えにくい災害ボランティアセンターの活動を知ってもらう良い機会にもなります。また連絡会メンバーにとっても昨年購入した無線機も含め、情報伝達の良い訓練の場となります。実戦的な内容で実力を付ける訓練としましょう。



注1：ブロック派遣とは 全国を8ブロックに分け、職員を派遣し被災地ボラセンを継続的に支援する

注2：支援Pとは 正式名称は「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」

企業、NPO、社協、共同募金会等により構成されるネットワーク組織。平常時は災害支援の研究や人材育成などを行い、災害時には多様な機関と連携し支援活動を行う。

## 7月定例会報告

開催日：2016年7月20日18:30～20:30

開催場所：港北区福祉保健活動拠点

出席：港北区ボランティア連絡会、梅の会、篠原地区ボランティア連絡会、富士塚ボランティアグループ、ガールスカウト第21団、国際救急法研究所、ボーイスカウト第8団、どろっぷ、横浜北部失語症友の会、港北区聴覚障害者協会、大倉山ミエル、びーのびーの、個人6名、区総務課：林、杉本、厚地、ボランティア班丸山、事務局：矢崎、藤原、片桐

**議事** 白井会長挨拶

### 【報告事項】

1：地域防災拠点との訓練進捗状況を報告

- ・太尾小とは今後、慎重に話し合う必要がある（誤解があるよう）
- ・師岡地区との連携を推進していく

2：常総市支援について

- ・森下町お茶会支援 7/25（月）に支援要請あり参加可能なメンバーを確認 MLで再度案内
- 鬼怒川花火大会は、7/25訪問の結果、MLで連絡

3：区役所よりの情報提供

(1) 防災マップの更新について

地図を裏面に、地震時の注意事項を表面にした  
→改訂内容は災ボラの活動にも関係してくるので、事前に知らせて欲しいと要望した。

→在宅避難者への支援はボラセン活動の大事な一つなので、拠点関係者と連携したい

(2) 拠点防災訓練日程について

まだ集約できていない。出来次第報告する(区)  
→判明している範囲で情報提供してほしい

(3) 防災拠点運営マニュアルについて

防災拠点の実状で、マニュアルの「白地」部分をうめてもらいたい。

各防災拠点独自のマニュアルが、本来は必要だと思うが、最低限のベースとして提供していく  
→避難所の運営で、既得権益化しているケースをよくみる、個人用のパーテーションが交流を阻害しているケースがある、など意見が出た

(4) 熊本支援の報告について

地域防災拠点向けには6月に実施している(区)  
→連絡会でも時間をもらえば実施したい  
資源循環局の報告もいっしょにしてもらえるとありがたい

4：物販について

どろっぷデー売り上げ報告—50,600円。すべてを売り切らないと資金確保にならない。今後もイベントで物販を実施したい

10/16 (日)	10:30～ 14:00	ミニらくらく市	菊名地区 センター前
10/22 (土)	9:30～ 14:00	港北ふれあい まつり	新横浜公園 野球場
10/28 (金)	午前中	ほくほくフェスタ	港北公会堂 中庭
10/29 (土)	11:00～ 14:30	カーボン山感謝祭	菊名桜山公園

5：マスコットキャラクター「サイボ」と命名

6：災害ボランティアコーディネーターハンドブック読み合わせ

7：災害手話

「私」「あなた」「みなさん」「私たち」など

8：タスクごとの会議日程確認

9：その他

- ・歓送迎会兼納涼会の実施 20名参加
  - ・「対話における傾聴」講座の案内
  - ・第二回聴覚障害者福祉講座「手話言語条例の内容を学ぶ」案内
  - ・陸前高田 ボランティアバス案内（8月7日）
  - ・7月25日神橋小学校のイベント案内
  - ・無線機使用申請提出
  - ・RSY呼びかけのみそ汁プロジェクトの箸とおわんを送付した
- 以上

## 常総市お茶っこお手伝い

### ★会話のきっかけは漬け物

最初に福島県飯舘村の渡辺さんより震災と原発被害、その後のお話がありました。お互いに被災者ということでみなさましっかり話を聞いていました。後半のお茶っこは幾つかのテーブルに分かれてのおやつタイムでした。

係の方に「どこのテーブルも和気あいあいとしていますね？」とお尋ねしたところ、「みなさまほとんど初対面です。でも漬物を用意すると女性陣はそれを話の素にして会話が始まります」事実遅れてお邪魔すると漬物のお皿はすっかり空っぽ。そして「いやあ、遅かったねえ。でもこの豆菓子も美味しいから食べなさいな！」とお皿を差し出されました。なるほど！会話のきっかけを作るテ

クニックを垣間見た一瞬でした。次はそのテクニックを使って皆さまとお話しをしたいと思います。

「来てくれるだけでうれしいのよ」の言葉につられて、皆さまもお出掛けください。(小澤美津子)



### ★受援力につながる交流

堤防決壊で水害被害を受けた常総市と、東日本大震災で津波と放射線双方の被災をした福島県の方との交流会が常総市保健センターで行われ初参加しました。母ちゃんのカプロジェクト協議会代表の渡辺とみ子さん、人と人を結び、地域と地域を結ぶと言う。「いいたて雪娘」、母ちゃん弁当、漬物が好評で販売されているとの講演に続き、いいたて雪娘のケーキや福島の桃を食べながら懇親会が参加者全員で行われた。8月11日の常総市の花火大会や模擬店イベントへお誘いを受けた。このような交流が受援力につながると感じた。

(白井保)

### 常総サマーフェスティバル2016

8月11日の山の日。常総市青年会議所企画のイベントに「みてみよう常総市」というボランティアグループが初出店するというので、東京多摩市からのボランティアグループと港北区災害ボランティア連絡会(3名)とで、お手伝いに参加し、輪投げ、ヨーヨーなどの販売を担当しました。

「みてみよう常総市」は、今回の災害を通じて知り合いになられた方数名で立ち上げた団体とのこと。これから何ができるかわからないけれど、でも昨年の水害で得た経験をもとにいろいろ発信をしたり、様々な課題を克服し、魅力的なまちづくりをしていきたい!と熱く語られていました。メンバーのお一人から、災害をきっかけに市報をより見るようになったが「常総市の人口が1000人も

減ってしまった!」と嘆かれていました。その方が、お祭りブースに来た子育て中の親や、これから出産される方に「常総市で生んでくれてありがとうね!」「子育て応援していくからね!」と気軽に話かけている姿も印象的でした。

昨年11月に「あすなろの里」にお茶っこボランティアで伺ったが、その時に遊んだ子どもと再会できたことも嬉しい出来事でした。

花火は「素晴らしい」の一言!混んではいても東京や横浜の比ではないので、花火好きには穴場かもしれません。夕刻になると川風が涼しく、とても心地よかったです。

街中では、商店が空きスペースを利用して、常総市の水害についての展示をしているところを何か所か見かけました。今までは、保健センター周辺しか行かなかったのですが、時間をつくって見学したいと思います。



10月22日(土)にスタディツアーとして、どこまで水位がきたかということステッカーを貼る街歩きを行う予定だそうです。興味深い内容なので、災ボラからも参加できたらいいですね!

\*\*\*\*\*

### 「知らない場所」から「大切な場所」

#### に 被災地に行き続けることで見えたこと

8月に、陸前高田市で、地域の方と一緒に「うごく七夕」の山車をひきました。「お祭りの山車の引き手が諸事情で少なくなっている」という話をスタッフが現地の知人から聞き「何か出来ることはないか」という思いがボランティアバス企画し、30名余が参加。当初予定していた範囲を超えて山車をひくことができたというお話があり、短い時間であっても、地域の方と一緒に一つの行事に関わられた貴重な機会となりました。

私にとって、陸前高田市や常総市は、もともと親戚や知人がいたわけでもなく「知らない場所」でした。災害後に現地に行く機会が増え、知り合

いができ、今ではテレビや新聞でその地名を見かけると思わず手をとめてしまいます。「災害をきっかけに」というと語弊があるかもしれませんが、本当にそれがきっかけで、「知らない場所」が「知っている場所・大切な場所」となってきました。また、それが伝染するのか、家族や友人も「陸前高田市」「常総市」という言葉を見かけると「あなたがこの間行っていた場所のことがニュースに出ていたよ」「物産展をやっていたので行ってみたい」と、ちょっと気にかけてくれるようになりました。実際にその場所に足を運ばなくても、そうやって「気にかける」気持ちを持ってもらえることも、実はすごく大切なことだと思っていて、現地に足を運んだものとして、現地の様子やそこで出会った人から見聞きしたことなどをきちんと「発信」していくことの必要性を痛感しています。

知り合ったばかりの常総市の方からは何回か顔をあわせるうちにいろいろとお誘いをいただくようになりました。陸前高田市の友人とは、日々の近況などをメールや電話で報告しあっています。気軽に会える距離ではありませんが、「いつも気にかけているよ」という気持ちを持ち、その地域の事情や背景を考慮した上で、地域の方と一緒に考え、動き、継続していくことから生まれるものがたくさんあります。不幸にしておきてしまった災害ですが、その後に出会い、「支援をする・される」という関係性ではなく、日常的な関係性につながっていくことが、広い意味で私たち自身の「防災・減災」意識を高めていくことにつながるなど改めて感じた今夏でした。

(山口麻津子)

災害ボランティアセンター立ち上げ訓練  
太尾防犯拠点センター  
9月23日(金)10~12時



## 地震と保険 (第2回)

～地震保険では家は建たない?～

地震保険は「火災保険の保険金額(再建築費用)の30%~50%」までしか契約できないことから、「地震保険では家は再建できず、保険として意味がない」という話をされる人がいます。それは本

当なのでしょうか。

確かに地震保険で「再建築費用」全額が支払われない以上、地震保険の保険金だけで被災した建物を完全に復旧することはできません。しかし、生活再建の役にはたつのです。土地・建物で4,000万円の家を購入。購入資金の80%、3,200万円を年利1.5%期間35年で借り入れたとします。この場合、ボーナス併用なしであれば月額の返済金額は、97,979円になります。また、建物の述べ床面積が80平米とすると、建物の再建築費用は、約1,800万円程度と考えられます。つまり、地震で全壊した時に受け取れる保険金の上限は900万円程度になるということです。

では、10年後に地震にあったとしましょう。この時、ローン残高は約2,500万円になっています。そこに地震保険の保険金を900万円受け取り、それをローンの返済にあてると、残債は1,600万円になります。その結果、ローンの返済月額は63,990円になります。建物再建築には1,800万円必要ですので、新たにローンを組んだとします。東日本大震災の時に、住宅支援機構が実施した「制度融資」と同様の優遇条件で融資を受けた場合、元の住宅ローンの残期間25年で返済とした場合で、月額の返済額が約60,000円、返済期間を35年に設定できれば、約45,000円になります。(現時点での基準金利での試算です)

地震保険がなければ、自宅はなくなり毎月97,979円の返済だけが25年間続くことを選択するか、あらたにローンを組んで45,000円~64,000円の負担増を選ぶか、ということになります。しかし地震保険があれば、自宅を再建し、月額の負担増も10,000円~30,000円程度ですませることができます。(続く) (中島一郎)

### 編集後記

☆相模原の事件は障害者防災の難しさにつながっています。防災訓練に地域の障害者が出てこないことも、ここにつながっています。連絡会でも論議が必要です。(宇田川)

☆今年の台風は変則的なコースで、東北など今まで被害のなかった地域で大被害がありました。港北区でも洪水や崖崩れなどへの対策が必要です。(山本)

☆常総市の花火大会、とても見ごたえがあり素晴らしかったです！花火ファンの皆さんにはおススメです。来年はみんなでツアーを組んで見に行きましょうか？！(山口)